|  |
| --- |
| 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表　　　　評価日　令和5年　12月　20日　　記載日　令和　6　年　3　月　　1日 |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 法人名 | 特定非営利活動法人パートナー | 代表者 | 渡辺　菜美 |  | 法人・事業所の特徴 | 事業所理念を「お年寄り一人ひとりの思いや願いを大切にします。」「昔からこの地で活躍されてきた地域のお年寄りを住み慣れたこの地で末永く安心して暮らせるように支えたい」と掲げ、施設運営だけでなく地域福祉の拠点を目指している。 |
| 事業所名 | 小規模多機能ホームうらら | 管理者 | 渡辺　菜美 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 出席者 | 市町村職員 | 知見を有するもの | 地域住民・地域団体 | 利用者 | 利用者家族 | 地域包括支援ｾﾝﾀｰ | 近隣事業所 | 事業所職員 | その他 | 合計 |
| 1人 | 2人 | 4人 | 0人 | 1人 | 0人 | 1人 | 5人 | 1人 | 　15　人 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 前回の改善計画 | 前回の改善計画に対する取組み・結果 | 意見 | 今回の改善計画 |
| Ａ．事業所自己評価の確認 | ・地域評価会を施設長中心に回すのではなく、スタッフにも企画、報告、まとめまで参加して、事業所、地域評価を自分事として捉える。・今回は事業所評価で掲げた９項目の課題を載せ、次回はその課題の達成度を報告するようにする。 | ・地域評価会を施設長中心に回すのではなく、スタッフにも企画、報告、まとめまで参加して発表をしてもらうことで事業所、地域評価を自分事として捉えられるようにした。・今年も職員1人１テーマを受け持ち、それについて深く考えるという方法にしてみた。・できている点、できていない点に沿った課題になっていないので分かりにくい。書式に沿った書き方を求める。との昨年の意見を受けて、できていない点の対応策を交えて報告した。 | ・今回はスタッフが資料を準備し、発表していて素晴らしかった。感激した。・全員で取り組んでいるということがよくわかった。・大変な仕事だと感じる。協力できることがあったら協力したい。・うららの推進会議は充実していて気づかされることが多い。 | ・スタッフ全員参加の事業所発表が好評だったので継続する。・掲げた課題に取り組んだプロセスや結果を次回のサービス評価で担当者が発表する。 |
| Ｂ．事業所のしつらえ・環境 | 1、居心地のいい空間作り。生活感や季節を感じられる工夫。（例）壁の装飾、お花見などのお出かけ、旬の食べ物、季節の行事など。1. コロナが落ち着いてきて、今年こそ利用者さんが地域の一員と実感できるような支援
 | 1、ひな祭りにはちらし寿司を食べるとか、夏休みには小学生ボランティアとスイカを割って食べるなど季節を自然と感じられる工夫をしている。・廊下の壁にその季節に合った装飾を飾る。見た目が悪くても利用者と一緒に作る事にこだわっている。２、地元邑町福寿会さんをお誘いして７月に炊き出し訓練と施設外避難訓練を行ったが広報不足で参加者「0」という結果に・・・。・お誕生ランチは、お誕生月者とお誕生日に近いスタッフが少人数でkokokurobeに出かけていって外食する企画を楽しんでいる。他にも、コスモホールやオレンジカフェにお出かけしている。 | ・玄関の鍵は防犯の面を考えるとかけるべき。そういうご時世では？・「入りにくい」ということは「しっかりした施設」と言うことにもとれる。・入りやすいということは地域の人や家族以外の人でも誰でも入れるということでは・・・・かたかごでは常時施錠している。暗証番号で管理する仕組み | 1、季節を感じられる工夫2、利用者とスタッフも地域の一員と実感できる支援３、鍵をかけても、かけなくても訪ねてきやすい施設づくり |
| Ｃ．事業所と地域のかかわり | 1・インターネットの活用で遠方の面会を可能にする。（再挑戦）2・委託主の行政と協力して、オレンジカフェの相談機能を強化。件数を推進会議で報告する。3・ボランティア委員会を立ち上げ、社協にボランティアの仲介や、楽しんで参加できる子供ボランティアの日を行い、今年の倍にする。数字目標３→６名 | 1通常の面会ができるようになったので、インターネットでの面会はゼロ。いつでも利用できる環境にはしている。LINEでのやり取りで家族とはタイムリーな連絡や情報交換できるようになった。2カフェの相談はゼロ。しかし、雑談の中で介護者家族の話を聞いたり、軽いアドバイスすることはあった。相談があれば「入善町の福祉のしおり」を準備して、リーダー（介護福祉士）がいつでも受け付ける。3社協へ学生ボラ募集の依頼した。傾聴ボラさんは戻ってきてくれている。・子供ボラは数は7名で目標クリア・ボランティア委員会から、学校関係者との懇談会に参加 | ・うららは地域の方に知られていますか？の問いに対して。介護に関係がない人は知らない。邑町の人は知っていると思う。・相談しやすいですか？の問いに対して。推進委員という立場でなら相談しやすい。「相談会」となると改まってしまう。うららのエプロンをしていたら訪問中に相談された。（スタッフより）民生委員として訪問していても半年ほどしてポツポツ話をしてくれるようになった。役場に相談と言われると敷居が高い…。 | 1，うららを邑町の色んな世代に知ってもらうためにも、地域資源の活用を具現化させる。2，地域のイベントにすまいるカフェを出店したり、すまいるカフェを宣伝して、相談しやすい場所や工夫をする。3，入善町サポーターポイントやうららボラポイント制度を活用してボランティア活動を盛り上げる。 |
| Ｄ．地域に出向いて本人の暮らしを　　　　　　　　支える取組み | 1. 通いの利用者の地域の民生委員に、運営推進委員になっていただいて、推進会議に出席していただき、利用者本人が住んでいる地域の方を交えた会議にする。
2. ケア記録をICT化（電子カルテ化）して記録業務を軽減し、ケアにかける時間を増やす。
 | 1・取組んでいません。邑町地区の村田さんに参加いただいていますが、この課題のために来てもらっていたわけではない。2、ケア記録をICT化（電子カルテ化）して記録業務を軽減しケアにかける時間を増やす。に関しては、まだ実感できていないです。操作にやっと慣れてきたという所でそれを活かしたり、ケアにかける時間を増やせたか？に関しては道半ば | ・施設ではなく、在宅生活ができるように考えて下さっていることが分かった。（利用者家族）・私も相談業務をしていて家族から相談がほとんどだが、本人のことを中心に考えることが大事だと改めて感じた。（行政）・独り暮らしや高齢者のみ世帯は本人たちより家族や周囲の方が心配している。・LineやZOOM会議などを使って進んでいるなと思う。ICT活用 | 1，通いの利用者さんで、まずは一人暮らし、高齢者二人暮らし世帯の地域の方（できれば民生委員）と連絡を取ってみる。2，ICTを含む、介護の現場における業務改善（生産性向上＝お客様満足度UP）に取り組み、どこがどう改善したかを発表できる。 |
| Ｅ．運営推進会議を活かした取組み | 1・運営推進委員のみなさんが会議だけではなく、参加ができて地域のためになる活動（例えば、炊き出し訓練）を行う。2・わかりやすい地域評価会にする | 1炊出しと施設外避難訓練には、地元邑町福寿会は参加者「0」だったが、４名の運営推進委員さんに参加いただきました。2「運営推進委員会の資料には近況、ボランティア状況、研修状況を毎回載せている。写真などを交え伝わりやすい工夫をしている。 | ・地域の人たちに頼られる存在になりたいなと思う（民生委員）・福寿会は高齢化で作業ができる人が少ない。「カレーを食べに来て」と言われれば来ると思う。・資料つくりなど大変だと思うがよく頑張っておられる。・全員参加の発表も良かった。・事例検討まではできなかった。 | 1・運営推進委員のみなさんが会議だけではなく、参加ができて地域のためになる活動。炊き出し訓練に再チャレンジする。2・運営推進会議で「地域での暮らしの問題のあるケース」の事例検討し意見を反映した実行のプロセスと結果を発表する。 |
| Ｆ．事業所の防災・災害対策 | 1・引き続き、災害BCP、コロナBCPをブラッシュアップする。2・非常食の入れ替え時に際し、炊き出し訓練を行い、福寿会の皆さんを招く。（８月）3・避難場所まで徒歩で移動してみる訓練を行い、地域の方にも呼びかけ参加してもらう。（８月） | **1，** 事業所内、外の研修会を開催して災害、コロナBCPの必要性を学習した。各委員会で担当してもらい内容の見直しをしている。・マニュアルの見直しだけでなく実技として、11月に町の出前講座を利用して消防署員から「応急手当講習」を受けました。**2，**・炊き出し訓練でカレーライス作りをして委員の方にも協力してもらった。・入善町から大きな鍋やコンロをお借りして、パックご飯を急速に温めることができた。・非常食の入れ替えや買い足しができた。バッテリーを使ってみた。・福寿会の皆さんに広報が足りず参加は0だった。次回は広報方法を改める。**3** 福寿会の皆さんに広報が足りず参加は0だったが、推進委員4名参加され、一緒にアルビス駐車場まで避難した。非常持ち出し袋を忘れた。 | 1について・どこの企業もＢＣＰ作成には、時間とお金をかけて取り組んでいる。ＢＣＰは避難訓練とは違い何かあった時にどう継続するまで決めていかなくてはならなくて、どこでも苦労している。専門家にアドバイスをもらうなどよくやっていると思う。・仕事をしながらのマニュアル作りなど大変だと思う。2，3について・邑町の防災を考える会にも参加して下さりありがとうございました。質問もあってよかった。・避難所については、その災害や規模によっても変わるので町の指示による。うららを出て避難するかどうかはうららの判断でよい。・（施設長）地区の防災訓練は今年は6班の集合場所に「うらら全員無事です」と言いに行った。しかし８号線を越えていかなくてはならないので車で移動した。歩いては難しい。（区長より返答）うららの代表が防災本部（邑町公民館）に状況説明に来るという形でよい。 | 1・次年度はBCP策定義務化の年。引き続き、災害BCP、感染症BCPをブラッシュアップする。2・非常食の入れ替え時に際し、炊き出し訓練を行い、地域の皆さんを招く。参加目標5名3・地区の防災訓練には防災本部（邑町公民館）に安否の状況説明に行く。４、敷地外避難場所まで徒歩で避難訓練して危険個所を洗い出し。 |